



Locate 自然との関連性の把握(優先地域※の特定)

日油グループ各社が直接操業している「日油グループのすべての生産拠点」とバリューチェーン上流にあたる「動植物系原料産地」について、位置情報をもとに自然との関連性を把握しました(詳細な位置情報を得られない場合は、入手可能な情報をもとに場所を推定しました)。

具体的には、自然への影響度(右表)の観点と、自社への影響度(生産数量・仕入金額)の観点を総合的に考慮することで、各生産拠点・原料産地が優先地域に該当するかを確認しました。その結果を右図に示します。日油グループの優先地域は、生産拠点としては、動植物原料を使用する日本であり、具体的には、機能材料事業の尼崎工場と機能食品事業の川崎事業所・大師工場と特定しました。優先地域の原料産地としては、パームを栽培するインドネシアとマレーシア、牛・豚の産地である日本、大豆を栽培するブラジル、乳製品の産地であるニュージーランドと特定しました。またこれらの原材料のうち、豚/パーム/大豆/乳製品を、最優先食品原材料と認識しました。

※ 優先地域: 自然との関連性があり、重要な依存関係、影響、リスク、機会がある、もしくは生態学的に影響を受けやすい場所

右記①～⑤の自然への影響度は[※1～※5: TNFD推奨の「自然への影響度」評価ツール]を用いて評価した。

※1 WWF Biodiversity Risk Filter

※2 Key Biodiversity Areas

※3 WWF Water Risk Filter

※4 WRI Aqueduct 4.0

※5 Global Forest Watch map, SIGWATCH

自然への影響度

自然への影響度	説明
① 生態系の完全性: 低下※1	生態系のバランスが崩れたり、健康な状態が損なわれたりしている地域 [例: 森林が伐採される、湿地が埋め立てられる、川が汚染される地域]
② 生物多様性の重要性: 高※1 ※2	生物多様性(さまざまな動植物や微生物の多様性)にとってとても重要性が高い地域 [例: 絶滅危惧種が多く生息している場所や、動植物の生息地として欠かせない地域]
③ 生態系の完全性: 高※1	生態系が非常に豊かで、元の状態をよく保っている地域 [例: 手付かずの森林や、汚染されていない川がある地域]
④ 水リスク: 高※3 ※4	例: 水の供給が不足している地域(渇水リスク)、洪水や水害が起きやすい地域、水が汚染されている地域
⑤ 生態系サービス提供の重要性: 高※5	先住民/地域コミュニティに対して「生態系サービス」提供が重要な地域 「生態系サービス」自然からの恩恵である、供給サービス(食料、水、木材、燃料など)、調整サービス(気候調整、水質浄化、洪水や干ばつの緩和など)など

日油グループの優先地域

